説教20211114ヘブライ10:31-39マルコ13:14-23「滅びから救われる為に」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

イエス様は十字架に着けられる直前に、読者、すなわち私たちに最も大きな苦難を予告されます。「憎むべき破壊者が立ってはならない所に立つのを見たら」とイエス様は言われます。何とも恐ろしいことですが、その時は私たちがこの地上にいる間にか、あるいは子孫たちの時代にか、とにかくいずれやってくることでしょう。あるいは私たちが気づかないだけでもうすでに来てしまっているかも知れません。イエス様の言われることは噓偽りでなく必ず起こることだからです。ですから、私たちは今日の恐ろしい話を素直に受け入れて、イエス様に聞いて参りたいと願います。

実は、最も大きな苦難に備えることが出来れば、私たちには最も大きな幸いが訪れます。そしてそのためには私たちは、今日の聖句に掲げましたヘブライ人への手紙10章 39節

「しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。」という御言葉を信じて、深く理解することが大切です。ここで言われています「滅びる者」とは決してこの地上において死んだ死者のことではありません。そして「命」と言うのはこの地上で尽きる命のことではなく、永遠の命のことです。ですからこの聖句は言葉を加えて説明すれば、しかし、私たちはひるんで永遠に滅びる者ではなく、信仰によって永遠の命を確保する者です、となります。この御言葉は、滅びや命の終着点を、決して地上での生物学的な死の時点にはおいていません。命の終着点とは最後に私たちが入れられるキリストの時であり、そこで私たちは永遠に生きる命をキリストに依って完成して頂くのです。

以上、申し上げたことはクリスチャンにとってはいわば常識でありましょうが、それでも尚、私たちは今日のような恐ろしい話を聞かされると、生物学的な死と、永遠の死とを区別できなくなって両者をごちゃまぜにしてしまい、わけの分からない恐怖にさいなまれてしまうことがあります。ですから私たちは今日の聖句に救いを求めましょう。イエス様は「しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。」と繰り返し私たちに言い聞かせ、私たちを救いへと導いていて下さるのです。

では、その最も大きな苦難の時を、具体的にマルコ福音書から見てまいりましょう。「屋上にいる者は下に降りてはならない。家にある物を何か取り出そうとして中に入ってはならない。畑にいる者は、上着を取りに帰ってはならない。」と15節16節には記されています。ここから私たちは、洪水や地崩れなどの天変地異が起こることをイメージするのではないでしょうか。何か自分が住む家が物理的に打撃を受けて、中にいる人間もろとも水や土に呑まれてしまうので、家の中にいてはならないという話であります。「それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。」なぜなら、家の中に留まっていることが出来ず、外に放り出されるからです。ですから「このことが冬に起こらないように、祈りなさい。」とイエス様は私たちに言われます。

続けてイエス様は、「それらの日には、神が天地を造られた創造の初めから今までなく、今後も決してないほどの苦難が来る」と言われます。それは、今までになかった大洪水、今までになかった地崩れのような天変地異のことかも知れません。しかし、この事態を考える時、私たちは冷静に今日の聖句に立ち返る必要があります。イエス様は、そのような大きな天変地異が起こって、人々がこの地上で物理的に生きられなくなり、生物学的な死を迎えることを、ここで語っておられるわけではないのです。イエス様はもっと重大なこと、すなわち私たちの永遠の命の滅びとその確保について、語られようとされているのです。つまり、大洪水も地崩れも、永遠の命の滅びをもたらす要因ではないということです。大洪水も地崩れも、永遠の命を滅ぼすことはできないということです。同様に考えれば、今まで人間を襲ってきた多くの疫病、今でいえば新型コロナウィルス感染症ですが、そこにいるコレラ菌や新型コロナウィルスという生き物も、私たちの永遠の命を滅ぼすことはできないということであります。

では、永遠の命を滅ぼすことができる、永遠の命に係わる最も大きな脅威とは何なのでしょうか。それは、「憎むべき破壊者」「偽メシアや偽預言者」などの人間なのであります。そしてそれは自分と関係がない極悪人、なのではなく、むしろ私たちが支援しているリーダー或いは人気者なのです。なぜなら、初めから極悪人と分かっている人は誰の支援も受けられず力を失いますが、人気があるリーダーは、多くの人の支持を受けてその力を伸ばしていくからです。そしてその力の源泉とは、私たち一人一人の内に宿っている悪なのです。私たちが持っている悪い部分が、そのリーダーの悪い部分と呼応して、その悪は増長していくのです。何とも恐ろしいことですが、イエス様はそのようにいっておられます。そしてその増長した悪が、私たちの永遠の命を滅ぼしていくのです。「だから、あなたがたは気をつけていなさい。一切の事を前もって言っておく。」このイエス様の御言葉で今日の説教は十分ですが、更に御言葉に聴いて参りましょう。

「生ける神の手に落ちるのは、恐ろしいことです。」このヘブライ人への手紙１０章31節に記された御言葉は、神の手で罪を裁かれるのは恐ろしいこと、という意味ですが、もう一つ、アイロニカルな読み方が出来ると思います。それはつまり、生ける神の手に落ち、神の御支配に服するということは、恐ろしいことではあるけれども、実はこの上ない大きな喜びである、と言うことです。そういわれれば当たり前のことですね。仮に破壊者や偽メシアや偽預言者などの手に落ち、その支配に服することになれば、私たちは滅ぼされてしまいます。しかし、まことの救い主である生ける神の手に落ち、その御支配に服するならば私たちは永遠の命に生きる者とされるということであります。

破壊者や偽メシアや偽預言者はうわべは愉快で魅力的で、バラ色の未来を語りますが、その中身は、悪であり、まことの苦しみであり、滅びであります。ですから私たちは十分に気をつけていなければなりません。一方で、まことの救い主である生ける神は、恐ろしく見えることもあるけれど、その中身は、永遠の命であり、大いなる喜びなのであります。先週木曜祈禱会で詩編の２編を読みましたが、11節には「おそれ敬って、主に仕え、おののきつつ、喜び踊れ」と記されています。また新しい聖書訳では「ふるえつつ、喜び踊れ」と記されています。私たちはイエス様にお仕えする時、「おののきつつ、喜び踊り、ふるえつつ、喜び踊って」いるのです。この恐れと喜びが交錯したアンビバレントな感じを皆さん、お分かりになるのではないでしょうか。　　　私たちは野放図な喜びや快楽に浸って満足しきっていて恐れから逃れている時にこそ、破壊者や偽メシアや偽預言者たちの手に落ちてしまいます。ですから私たちは十分に気をつけていなければなりません。

さて「生ける神の手に落ちるのは、恐ろしいことです。」と言う御言葉は、アイロニカルな言い回しで、実は、イエス様が、私のもとに来なさい、そうすればあなたは救われて喜びに満たされますと言われるのと、同じ意味のことを言われていることが知らされました。ですが「生ける神の手に落ちる」と聞くと、思わずぞくっとしてしまうのが私たち人間なのではないでしょうか。先週の１０日に私たちの姉妹であります福澤八重子さんが天に召されました。今は天に上げられ、天に居られるイエス様の御そばで安らぎの時を送っておられることでしょう。天の国は安らぎと平和と喜びと豊かさで満ち溢れていることでしょう。それを今日の聖句の言い回しで表現するならば、彼女は今、生ける神の手に落ちて、神の全き御支配の内に置かれ、全き自由を得ているということであります。主なる神は、私たちの最後のキリストの時に至るまでの道行きを保証して下さいます。それは、私たちがどんな大きな苦難に差し掛かっても、私たちを全力で保護される神の全き御支配によって保たれることでしょう。そのように神の全き御支配とは、私たちを悪い物から完全に守り、天上に上げられた者も、いまだ地にある者も等しく、同じ神の御手の内において、完全に守ってくださるということなのです。ですから私たちは決して神の御手に恐れを抱き、ひるんでしまってはいけないのです。神の御言葉は時に、私たちをぞくっとさせることもあるかもしれません。しかしそこで忍耐して、神の御言葉に信頼し続ける時、私たちは神によって約束されている大きな喜びを得ることが出来るのです。

さて「生ける神の手に落ちる」で使われる落ちるという動詞は、穴の中に転がり落ちるという意味合いです。私たちは、深い穴の中に転がり落ちてしまった時、出口が、頭上のあまりにも遥か彼方にあることに、絶望的になるかもしれません。私が陥っている状況は決して喜ばしいことではありません。それは大きな苦難の時であります。私は恐れに支配され、喜ぶことなどできないことでしょう。私はこの時、或いはこの地上での生物学的な命を失い死を迎えるかも知れません。しかし、その時も、主イエスはその深い穴の中で私と共に居て、私を永遠の命に救い出して下さるのです。

その昔、ドリフターズが演じたコメディーの中に、人が高層ビルの上から体を吊り下げられて、ビルの壁面の窓掃除を命がけで行っていたと思いきや、突如、その人は高層ビルの壁面を手ぶらで楽々と歩き始めたという場面がありました。実は、高層ビルの壁面は、水平の床の上に設けられていて、カメラが９０度反転して、あたかも垂直の壁面のように撮影されていただけだったのです。この話は、私たちが普段の生活において、この世の重力に縛られていながら、その縛られていることに気がつかないでいるということを物語りますが、その重力をもお造りなった主なる神が、重力に縛られることがあるでしょうか。そんなことはありえないことです。パウロは言います。「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」

私たちは最後のキリストの時に至るまで、キリストの御手の内にあって守られています。私たちは最後まで「わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です」という御言葉を信じ、そして最後まで、「おそれ敬って、主に仕え、おののきつつ、喜び踊れ」という御言葉を行っていきたいと願います。この一週間も全ての人々に主イエスの憐みと癒しがいきわたりますようにと祈ります。

お祈りいたします

憐み深い

あなたは、私たちに最も大きな困難が起こることを示され、その困難に遭遇する私たちが、あなたを信じ最後まで従うことによって、あなたによって救い出されるということを約束されました。どうか少しの困難に遭遇するだけで、恐れに支配されひるんでしまう私たちを強めて下さい。どうかあなたの力強い御手によって私たちを抱き留め、あらゆる偶像の支配から私たちを解き放って下さい。今の世の憎むべき破壊者とは、各々の小さな悪い心が作り上げた目に見えない偶像であるかもしれません。どうかあなたがその悪を打ち砕き、私たちを永遠の命に活かしてくださいますように。

あなたの御子は、今、苦しんでいる私たちと共におられ、あなたが定められそして縮めて下さる苦しみの期間を、私たちが喜んで耐え忍ぶようにしてくださいました。あなたは私たちが死をも乗り越えて、最後の時に永遠の命にあずかることが出来るようにしてくださいます。どうか私たちがそのことを信じて、日々の生活を平和の裡に歩んでいくことが出来ますように。

父と聖霊と共に